

神河町杉区の大日祭・大日庵

田村 友希
小泉 朋大

1. 神河町の大日祭

『神河町歴史文化基本構想 資料編—かみかわ歴史文化遺産カルテ—』（神河町教育委員会 2017）によると、兵庫県神崎郡神河町では、40区中21区で「大日祭」もしくは「大日さん」、「大日講」といった行事がある。また、40区中9区に、大日堂（大日庵）と呼ばれる建物が現存している。神河町における大日祭の広がりを知りやすくするため、「神河町における大日祭・大日堂の分布」（図1）、「神河町の大日祭・大日堂一覧」（表1）において、現在の神河町でおこなわれている大日祭と現存している大日堂をまとめた。

大日祭はもともと牛と関わりが深い行事である。牛の飼育について、『神河町歴史文化基本構想 資料編』に「かつて牛の飼育がおこなわれていた」ことが明記されていなかったのは、しんこうタウン区、中村区、福本区、東柏尾区のみで、その他の区ではすべて、昭和30～40年頃まで牛の飼育がおこなわれていたようである。一方、行事の名前や説明に牛との関わりが明記されていたのは、根宇野区、山田区、吉富区、杉区、比延区、鍛冶区、宮野区である。よってこれらの区では大日祭が「牛」に関わりが深いものであることがかつて意識されていた、もしくは、現在も意識されている可能性が比較的高いと考えられる。また、かつて山田区や吉富区、杉区では、祭りの際、祀ったおにぎりを牛に食べさせていたようである。

2. 杉区の「大日さん」

平成29年（2017）8月28日、13時50分頃～15時30分頃にかけて、神河町杉区の大日庵行事の見学、および聞き取り調査をおこなった。

まず、聞き取り調査からわかった、杉区の「大日さん」の概要を述べておく。現在、この行事は、年に2回（1月28日と8月28日）、杉区の大日庵にて実施されており、1組から4組までの隣保組織が年ごとに当番にあたる。今年（2017年）は4組がこの行事の当番にあっていた。当番の組の女性は、大日庵の掃除と準備、行事後に配られるおにぎり等の準備をおこなうことになっている。今回は特別に午後2時からの開始だったが、基本は午後4時から開始される。行事自体に参加するのは、当番の組の人だけでなく、区民全員である。なお、今年の1月28日の行事は、簡略化した形式で実施されたが、今回は、昨年（2016年）の8月28日までと同じ形式でおこなわれた。

行事の様子と流れは、次の通りである。

開始予定時刻（14時）の10分ほど前から、大日庵に区民が集まり始めた。その時点で、庵内の準備はほぼ完了していた。正面には紫色の幕がかかっており、壇上に並んだ仏像それぞれ

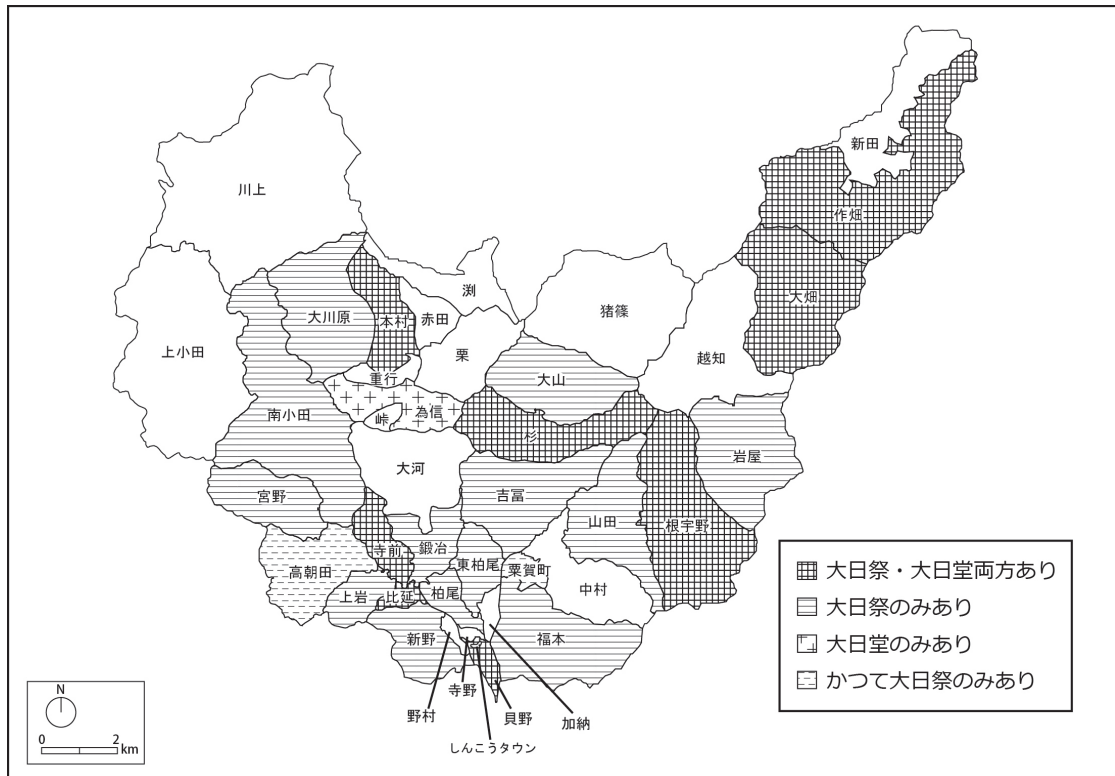


図1 神河町における大日祭・大日堂の分布

れに、花と、小皿に2つずつ盛られたおにぎりが供えられていた。仏像は、右から、毘沙門天、弘法大師、観世音菩薩、大日如来、不動明王、地蔵菩薩、庚申の順に並んでおり、それぞれの前に名札が固定されていた。また、正面中央、大日如来像の前には、牛の土人形が置かれていた。仏像の置かれている壇の前には一段下がった棚があり、金地の布がかけられた上に、菓子やスイカが供えられていた。そしてその手前の畳の上には、向かって右から、木魚、りん、「賽銭入れ」（磬子）、そして鐘が置かれていた。また、向かって左側の壁には掛け軸がかけられていた。集まった区民のうち数人は、「賽銭入れ」に賽銭を入れ、前に並ぶ仏像に手を合わせていた。賽銭を入れた後、左隣におかれている撥で「賽銭入れ」を叩いて鳴らす人もいた。集まってきた区民が堂内に敷かれた座布団に座り始めると、棚の上に用意されていた般若心経の冊子と、真言が印刷された紙が前から配られた。

13時57分、先達が軽く挨拶をし、行事が開始された。一番前の中央に先達が座り、その両側に4組の女性2人が座る形で、それぞれの前に置いてある鳴り物を鳴らす役割をおこなっていた。最初は先達1人が祝詞をあげ、59分からは真言を全員で揃って読んでいった。真言は、大日如来、観世音菩薩、地蔵菩薩、不動明王、毘沙門天、庚申、光明真言、弘法大師の順に、それぞれ3回ずつ読まれた。14時2分からは全員で般若心経を読み、最後に先達がまた別の祝詞をあげ、14時6分に終了した。その後、直会として、プラスチック製の容器におにぎりが3種類、カボチャとジャガイモの煮物、プチトマトの入ったお弁当と、ペットボトル入りのお茶が参加者に配布された。行事全体にかかった時間は10分程度であった。参加者

表1 神河町の大日祭・大日堂一覧

区	大日祭	大日堂	『神河町歴史文化基本構想 資料編』に記載された行事名・日程・特徴
新田区	-	-	-
作畑区	○	○	大日祭り。「7月27日に、大日堂において大日如来を祀る、お経を唱える。」
大畑区	○	○	大日堂祭り。「7月28日に大日堂において、住職が回向を行う。以前は、牛を連れて参っていた。別に、大日講（大日祭り）という行事もある。」
越知区	-	-	-
岩屋区	○	-	大日如来祭。「7月28日に実施。」
根宇野区	○	○	大日さん（牛の神さん）。「8月28日、大日如来堂において、2組主催で飾り付けし、混ぜご飯のおにぎり、関東煮とお酒をふるまう。お供え、数珠繰りを行う。」
山田区	○	○	大日講（大日さん）。「字大瀬山に大日堂があり、周りは山田区墓地、旧大瀬組（現2組）で祀っている。以前は祀ったおにぎりを各家の牛に食べさせた。1月・8月に大日祭りがある。」
中村区	-	-	-
栗賀町区	△	-	-
福本区	○	-	大日祭り。「3月28日に大日如来にて牛馬を祀る。」
貝野区	○	○	大日さん（大日講）。「8月28日に、大日堂において住職による読経が行われる。」
しんこう タウン区	-	-	-
寺野区	-	-	-
柏尾区	○	-	大日まつり。「毎月祀る。2月・8月が大祀り。区民あげての参拜の場として伝統行事を維持管理している。」
加納区	-	-	-
東柏尾区	○	-	大日さん。「8月28日前後の土曜・日曜日に、大師堂前において行われる。お大師さんと大日さんが統合して1回になった。数珠繰り、祈禱、ふるまい酒、ビンゴゲーム、以前は盆踊りをしてきた。」
吉富区	○	-	大日講（大日祭り）。「8月、観音堂に祀られている大日如来の前で、長泉寺住職による法要後、直会をする。以前、各家で牛を飼っていたころは、大日祭で祈願された大豆入りのおにぎりを持ち帰り、牛馬に食べさせ、牛馬のお守りとしていた。」
杉区	○	○	大日さん。「1月28日、8月28日に、大日庵において各組輪番で、お経を唱え、おにぎり、おかずをふるまう。以前は、牛の神様として、牛におにぎりを与えた。」「庚申さんも、大日さんと一緒に祀る。」
大山区	○	-	大日祭。「1月28日に、七寶寺において行われる。」
猪篠区	-	-	-
新野区	○	○	大日祭り。「3月28日15時、大日堂において、岡崎最寄、お経、お供え、パン・菓子・ジュースをいただく。」
野村区	-	-	-
比延区	○	○	大日さん。「4月中旬、字本城の大日堂・毘沙門堂において、牛の神を祀り、集まっておにぎりを食べていた。平成23年（2011）に50年ぶりに復活した。写真展、福引、区全体でお祀りし、会食（関東煮、おにぎり、ビール）。」
寺前区	○	○	大日さん。「1月最終日曜日に、大日如来を祀る。」
鍛冶区	○	-	大日さん（大日如来祭）。「昔、農耕の為、牛を飼っていて、その牛を守る大日如来を安置している所で、1月下旬に寿福寺住職による読経で祀る。（以前はおにぎりを食べ、奉納相撲が行われていた）。」
大河区	-	-	-
上岩区	○	-	大日さん。「12月第1日曜日に祭りを行う。山の神とほぼ同じ位置にある。」山の神も同じく「12月第1日曜日に祭りを行う。」
高朝田区	△	-	大日さん。「昭和30年代後半まで行われていた。祭りはなくても、お大師さんの隣なのでお参りしている。」
宮野区	○	-	大日祭り。「3月に行う。牛馬の守り神は、以前は草刈り場・放牧地にあったが、現在は薬師堂境内にある。祭りは薬師祭りと一括になった。」薬師祭りは「8月8日に薬師堂において行う。」
南小田区	○	-	大日さん。「南小田下庄・上庄、石田横瀬最寄において行う。」
上小田区	-	-	-
川上区	-	-	-
大川原区	○	-	大日さん。「1月28日・5月28日・9月28日に本村と共同で行う。」
本村区	○	○	大日祭り。「1月28日・5月28日・9月28日に行う大日堂の祭礼。祐泉寺住職施餓鬼、福引、供餅配布、サイトウ（1月28日）。」
赤田区	-	-	-
重行区	-	-	-
為信区	-	○	-
峠区	-	-	-
栗区	-	-	-
湊区	-	-	-

○……現在あり △……かつてあった -……記載なし

参考：神河町教育委員会（2017）『神河町歴史文化基本構想 資料編—かみかわ歴史文化遺産カルテ—』

神河町教育委員会（2016）『神河町歴史文化基本構想』

の大半は年配の方で、子どもは数人しか参加していなかった。また、女性の参加者がやや多かった。

3. 大日さんについての聞き取り調査

「大日さん」と牛の関係について

幼少期から杉区で暮らしてきたという藤原幸子氏（昭和25年11月生まれ）によると、各戸で牛が飼われていた頃の杉では、毎月28日に「大日さん」をおこなっていた。そして、供えていた小豆入りのおにぎりを、行事の後、牛に食べさせていたという。現在のように、年に2回のみおこなわれるようになったのがいつ頃からなのかは不明である。

杉区のお祭りについてよく知っているという船田君代氏（昭和8年3月生まれ）は、「牛は大日さんのお供とされている。各戸に牛を飼っていた頃は、『大日如来様』として、というよりは、『牛の仏様（神様）』として、おまつりされてきたのではないだろうか」と述べる。また、20歳の時杉区へ嫁いで来たという足立勝子氏（昭和20年4月生まれ）によると、杉で牛が飼われなくなったのは昭和30年台後半（特に、昭和39年から昭和40年にかけて）以降のことであるという。理由はその時期から、それまで農業において牛が果たしていた役割を、耕運機やトラクターなどの農業機械が取って代わるようになったためである。

そのようにして杉区で牛が飼われなくなると、「（もう牛を飼っていないのに）大日如来をおまつりする意味があるのか」といった極端な考えを持つ人も出てきたという。しかし、杉区の人々は現在に至るまで「大日さん」を伝承行事として守ってきた。船田氏によると、「（大日如来が）ありがたいから」というより、「伝承行事を守り伝えていこう」という気持ちで、祭りを続けてきたのだという。

行事の準備について

第2節でも述べた通り、杉区の「大日さん」の準備は、1組から4組までの隣保組織が年ごとに当番にあたっている。今年は4組がこの行事の当番であった。当番の組の女性は、行事のおこなわれる大日庵の掃除と準備、行事後に配られるおにぎり等の準備をおこなうことになっている。また、行事を取り仕切る先達は、当番の組の女性から選ばれる。

今回の行事の先達を務めた足立氏によると、先達の選び方は組により異なるという。今年の当番であった4組の場合、組の中で考えた結果、仏教の家の女性3名が先達とそのサポートの2人に選ばれたそうだ。

近年、仏像に供えるおにぎりや、行事の後に配るお弁当などの調理は、当番にあたった各組の集会所でおこなっている。今回は、杉4組集会所で調理されていた。いつ頃からそうするようになったのかは不明であるが、それ以前は当番の組の誰かの家に集まって調理をしていたという。

大日庵内部の準備は、掃除をし、座布団を出すこと他に、仏像に花やおにぎり、お菓子などを供えること、金地の布を棚にかけること、掛け軸をかけること、冊子や御真言の紙を用意することである。

なお、「平成12年10月吉日 / 奉納 / 大日講 / 庚申講」と記された紫色の幕は、常時正面に

かかっているものであった。また掛け軸は普段は区長預かりで、入っていた箱の蓋の内側の墨書から、福本区出身の藤原作治氏が昭和46年（1971）に作成したものであると考えられる。行事で用いる鳴らし物（木魚、りん、鐘、賽銭入れ）の由来についてはわからなかった。また、行事の前後に賽銭を入れる「賽銭入れ」とは別に賽銭箱とみられるものが柵上に置かれていたが、そちらは現在特に使用されていないとのことであった。

「大日さん」の行事内容について

杉区には、1組から4組までの隣保組織があり、行事の仕方はその組その組によって少しずつ違っているという。船田氏によると、「大日さん」のように大日庵でおこなう仏教関係の行事では、庵にまつられている全ての仏の真言をあげるのだという。「大日さん」の場合は、大日如来が中心なので、真言も大日如来のものから順にあげる。また、御詠歌は仏教のお通夜のときにあげるもので、「大日さん」や「庚申さん」といった行事ではあげないという。「大日さん」や「庚申さん」では基本、般若心経をあげる。

4. 杉区の大日庵

次に、杉区の大日庵について述べていく。この大日庵は神河町内の他の村堂と比べ、比較的規模の大きいお堂（写真1）である。入り口を入るとすぐ土間があり、左側には台所、右側に物置がある。床には部屋と廊下があり、部屋の奥に須弥壇（写真2）がある。部屋は現在は一室からなる。ただし、鴨居がありその前後で天井の高さが異なっているため（写真3）、以前は二つの部屋に区切られていたと考えられる。また、背面側には物置が付属しており、その内部には御輿や以前は土葬するための穴を掘る際に使われるスコップなども収められている。また、台所のかまどは葬式の際に炊事をするための場所であつたらしく、現在そのかまどを使うことはない。祭りの際の料理は持ち寄るか近くの四組の集会所を使うなど別火しているようだ。

次に、大日庵の使用法と地域の信仰について述べていく。まず、この地区に大日庵が根付いている一番の要因は大日如来が非常に牛と関わりの深い仏様であるからだと考えられる。この地域では各戸で田起こしや肥料を得るために、多くの家で牛を飼っていた。大日如来は牛の神様、仏様という認識が強かった。しかし、昭和40年頃に耕運機が普及して以降は牛を飼う家庭が少なくなり、大日如来に対する信仰は昔よりは薄くなった。現在では、毎年二回の大日祭りを形式に則って行っている。また、廃仏毀釈の影響で村に寺がなくなり、多くの村人が天理教を信仰するようになった。このような経緯が大日如来に対する信仰に影響を及ぼしたと考えられる。

この大日庵は集落の中心の道路から少し入った場所に建っており、集落の中心部からすこし離れている。また、すぐ隣を国道312号がはしっている。このように中心部から離れた場所に立地しているのは、その裏にある墓と密接な関係があると考えられる。



写真1 杉区大日堂全景
(小泉朋大撮影)



写真2 須弥壇中央
(小泉朋大撮影)



写真3 杉区大日堂堂内鴨居
(小泉朋大撮影)

【謝辞】

今回の調査にあたり、杉区区長の藤原純仁様をはじめ、ご協力いただきました杉区民の皆様に感謝いたします。

【参考文献】

- 大島建彦ほか編（2001）『日本の神仏の辞典』大修館書店
- 神河町教育委員会（2016）『神河町歴史文化基本構想』
- 神河町教育委員会（2017）『神河町歴史文化基本構想 資料編—かみかわ歴史文化遺産カルテ』
- 神河町文化財活性化委員会（2014）『神河町の歴史文化遺産Ⅱ—歴史史料総合調査の成果』
- 京都府立大学文学部歴史学科（2016）『京都府立大学文学部歴史学科 フィールド調査集報 第2号』
- 福田アジオ ほか 編（1999）『日本民俗大辞典 上』吉川弘文館